

【評価】 保護者、教員アンケートによる評価：A：3点 B：2点 C：1点 D：0点 点数の合計で評価 [項目満点：72点 (教職員：24点 保護者：48点)]

達成度：A 達成できた(8割以上) B ほぼ達成できた(6～7割) C あまり達成できなかった(4～5割) D 達成できなかった(3割以下) ※下段の()…前年度の達成度 ■…昨年度の達成度より5ポイント以上向上

項目	評価項目ごとの集計結果				達成度		達成状況(成果：○ 課題：△ 課題に対する改善策：⇒ゴシック)		①評価項目ごとの意見	
	教職員	点数	保護者	点数	類	目	教職員	保護者		
早く登校したくなる 楽しい学校	①	子どもたちは、楽しく学校生活を送ることができる。(全)	20	お子さんは、学校に行くことを楽しく思っている。	43	A 87.5 (86.3)	A 85.6 % (78.6 %)	② 指導体制を確認し合って昼休みなどに積極的に外に出て遊べるようにし、児童が元気に活動できるようにしたため、運動量確保に効果があった。 △ 「運動遊びの時間」は、比較的、児童の運動量、活動量を確保できたが、その他の学習時間は個人差があった。 △ 個に応じた指導、及び年間指導計画と個別の指導計画のつながりから評価した結果を次年度の計画に生かす取り組みは、まだ不十分である。 ④ 丁寧な場の設定や見通しをもたせる指導により、全校児童合同の学習において、一人一人の児童が学習に参加できるようになってきた。 ⑤ 教員同士がお互いに授業を見合う機会があり、良い研修になった。 △ 日々の授業改善について、特にグループでの学習、全体での学習についての振り返りと改善をさらに丁寧に行う必要がある。 △ 津山小と、児童についての情報交換をより丁寧に行う必要がある。 ⇒新しい週時程の作成 ※設定：「時間における指導」の設定 ・体育科の設定により、計画的に児童の運動量・活動量を確保し、さまざまな運動に親しむ態度を育めるようにする。(生活単元学習や昼休みの取り組みをさらに計画的に行い、運動量の確保を図るとともに、運動に関する学習活動を充実させる。) ・国語科・算数科・自立活動の設定で児童一人一人に応じた系統的・段階的な学習を進めることにより、児童がより力を発揮できるようにする。 ⇒カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた教育活動の実施 ・教科横断的な学習単元づくり、PDCAサイクル、地域の人材・資源の視点を踏まえた教育活動を実施し、指導の効果を高める。(今年度中に試案を作成) ⇒児童一人一人の学習課題の共有 ・個別の教育支援計画に記載する学習課題を精選し、今後も、担外も含めて共に指導を行う教員が児童の学習課題を共有する機会をもつ。 ⇒学習の振り返りと次の授業に生かす取り組み ・早めの計画立案により、反省をもとに改善ポイントが明確にした丁寧な授業の提案を行い、改善ポイントに沿って振り返ることで、次の授業に生かす。 ・一定期間実施する学習活動については、中間評価を実施し、即改善に生かして授業を充実させていく。 ⇒交流の充実 ・津山小とのそれぞれの児童についての情報交換のポイントを明確にし、交流学習を充実させる。 ・保護者に、居住地校交流の内容や意義、居住地の学校の行事や地域行事に参加する交流の仕方等を紹介していく。	① 毎朝、子どもに「学校行くよ。」と声をかけると、すぐ出発準備をする。 ①△子どもが、朝、駐車場から昇降口までスムーズに行けるようになった。あともう少し、昇降口から教室までスムーズに行けるようになるとよい。 △ 朝になると、子どもが行きたくない様子のときもある。 ② 学校は、いろいろなプログラムを考え、ルールのある体を動かすゲームをしてきている。また、毎日運動遊びがあり、そのおかげか子どもは以前に比べ体調を崩すことが少なくなった。 ③ 子どもが好きな本を覚えて話をしたり好きな歌を歌ったりし成長を感じる。子どもに合わせ、適切に指導・支援が行われている。 ③ 宿題がありがたい。 ③△担任の先生に他害行為をした際やパニック時の対応について引き続きしっかり対応してほしい。 ⑦ おたよりの報告で様々な行事を通して交流している様子がよく分かる。いろんな方と触れ合う機会を設けられ、経験を積み重ねることができている。 △ できれば、地元の小学校との連携も深めてもらえると助かる。	
	②	学校生活において、児童の運動量、活動量を十分に確保している。(全)	17	お子さんが体を動かすことが好きになる活動が実践されている。	44	A 84.7 (76.5)				
	③	個別の指導計画を作成、評価により個に応じた指導・支援に取り組んでいる。(個)	18	お子さんに合った指導・支援がなされている。	41	A 81.9 (82.4)				
	④	年間指導計画の活用と学習の振り返り(中間評価も)を通して、課題設定や学習内容、指導のあり方などに関する授業改善を行っている。(個)	18			B 75.0 (61.9)				
	⑤	授業研究会を通じた授業改善の充実に努めている。(個)	20			A 83.3 (71.4)				
	⑥	特別支援教育に関する校内研修会(児童を語る会・ケース会も含む)の内容を日頃の指導に生かし校外の研修会に積極的に参加している。(個)	21			A 87.5 (71.4)				
	⑦	津山小学校、本校、山形校や地域との交流及び共同学習の充実に努めている。(全)	22	学校は、津山小学校や本校、山形校、地域の方との交流学習の充実に努めている。	44	A 91.7 (82.4)				
安心してまかせられる 安全な学校	⑧			学級担任は、お子さんの日頃の学校での様子について、保護者とよく連絡を取り話し合っている。	43	A 87.5 (93.3)	A 89.8 % (82.9 %)	⑩ いじめアンケートの集約などよくなされている。現在のところ認知件数は0であるが、今後も児童を丁寧に見守っていく。 △ 教室外に飛び出す児童について常に危険を予測し、適切な指導が必要である。 ⑪ 全体的に集団行動についての成長が見られ、全児童が、みんなで一緒に避難できるようになってきた。 △ 避難訓練は計画的に実施されているが、天童校の状況に応じ、児童一人一人のめあても設定した天童校独自の計画もあるとよい。 ⇒ヒヤリハットの集約・周知…担当を中心により丁寧に行っていく。 ⇒避難訓練の充実…天童校のみの天童校の状況に応じた計画も検討していく。(児童一人一人のめあても設定)	⑧ 朝の登校時や連絡帳を通して様子などを教えてもらったり、こちらからも伝えたりできている。家庭から、子どもの様子を細かく記入すると、それに対し、「学校では○○です。」など、担任の先生が教えてくれるので安心。 △ 保護者側からも、必要に応じて連絡帳に記入していきたい。 △ 子どもの心配な行動について、早めに伝えてほしい。 ⑨ 毎年の保護者研修会は、とても勉強になる。施設見学や進路だより等でさまざまな情報を知ることができている。すぐくこまめな情報提供は、保護者の意識づけになっている。 ⑩ 学校医との連携などしっかりしていると感じる。 ⑩ 毎朝の駐車場の誘導により、安心して送迎できている。 ⑩ 朝の送迎の駐車場が公民館のときは危ないと思う場面もあったが、学校の駐車場になってからは安心して登校できている。駐車場利用が時間差となり、大変助かっている。 △ 車で出入りする際に校門に先生が不在だと危険に感じたりすることもある。できれば安全重視でお願いしたい。 ⇒保護者への連絡…児童の他害等についても保護者により丁寧に伝えていく。 ⇒登校の際の駐車場誘導…校門付近における誘導を丁寧に行っていく。	
	⑨			学校は、福祉や進路などの情報を保護者に伝えようと努めている。(新項目)	43	A 86.1 (-)				
	⑩	児童の安全面の課題について情報共有を行い、事故の未然防止、いじめ防止に努めている。(個)	20	お子さんの健康・安全が守られ、学校に安心して任せることができる。	46	A 88.5 (84.7)				
	⑪	津山小と連携した避難訓練の実施、安全マニュアルの全職員での周知により、適切な危機対応の体制を整えている。(全)	19			A 95.8 (76.2)				
	⑫	個人情報の保護、情報管理の徹底を図っている。(個)	23			A 91.7 (76.2)				
相談や支援を受けられる 頼りになる学校	⑬	教育相談の実施や地域の学校の授業研究会等での指導により、特別支援教育のセンター的機能を果たしている。(全)	22			A 86.1 (-)	A 87.5 % (86.1 %)	△ 天童市民としては、天童校を地域の人に知ってもらうところはまだ不十分だと感じる。支援学校があることを知らない人も多い。 ⇒学校だより、地域発信だより、学部だよりを一本化…保護者の皆様に天童校の地域発信の状況をご理解いただけるようにする。おたよりの、地域発信に関する情報を充実させる。 ⇒メディアへの依頼…新聞社等に行事等の紹介について依頼する。 (その他) △ 個々の能力の高い先生ばかりで安心して任せられる反面、教員の数が少ないと感じる。本校のように、1クラス2人体制になれば、よりきめ細かい対応、個人の力を伸ばしてあげられるとともに、事故に対しても安心できる。 ⇒指導体制の工夫…保護者に、本校と同様の体制であることを伝えていく。今後も、担外も一緒に指導するより適切な体制づくりに努める。		
	⑭	地域の方との交流、地域回覧用の学校だよりの定期的な発行、学校紹介リーフレットの配布などにより、天童校の情報を発信している。(全)	24	天童校の教育や児童の様子などについて、保護者や地域の方に情報発信されている。(新項目)	38	A 86.1 (-)				
やりがいのある学校	⑮	会議等の精選により、教材研究や研修の時間の確保に努めている。(全)	19			B 79.2 (76.2)	B 79.2 % (73.8 %)	⑮ 職員によっては放課後に教材準備や学級事務などに使える時間が多かった。 ⑮ 分掌部をまたいで似たような研修会が設定されていたところを、企画運営委員会で調整し、バランスをとることができた。今後も整理に努める。 ⑯ 春からの子どもたちの成長ぶりがめざましい。教員間で共通理解を図りながら歩調を合わせて指導してきた成果も大きい。「あいさつ」「運動あそび」などの指導、「環境整備」「(児童に提示する)情報整理」なども効果的だった。 △ 授業案の簡略化、トイレ掃除の工夫などの業務の効率化をめざしたい。 △ やりがいのある職場という面はあるが、業務量の個人差、大きな複数の担当業務を兼務している職員がいるところの改善が必要である。 ⑯ 日番業務について、お茶パケツの廃止など細かな改善が進んだ。 △ 係にのみ任せるのではなく、みんなでより積極的に働きやすい雰囲気づくりをしたい。 ⇒学校運営組織の見直し…分掌部と委員会の業務を一覧にして見える化して整理し、負担を考慮した組織構成にする。 ⇒業務の効率化…指導案の簡略化等、職員に案を募りながら進めていく。 ⇒TT体制の工夫…主担当が企画立案した指導をリードする、サブは主担当のフォローというように役割分担し、担任団が互いにもっと動けるように工夫する。学部主任は、主に全体を見渡し、改善の助言や指導のフォローを行う。 ⇒より良い職場づくり…湯茶関係などの細かなところもみんなで心がけ、良い職場づくりができるよう、職員で声を掛け合う。		
	⑯	日頃から教職員間で共通理解を図り、全職員での協働のもと課題解決に取り組んでいる。(全)	19			B 79.2 (71.4)				

